

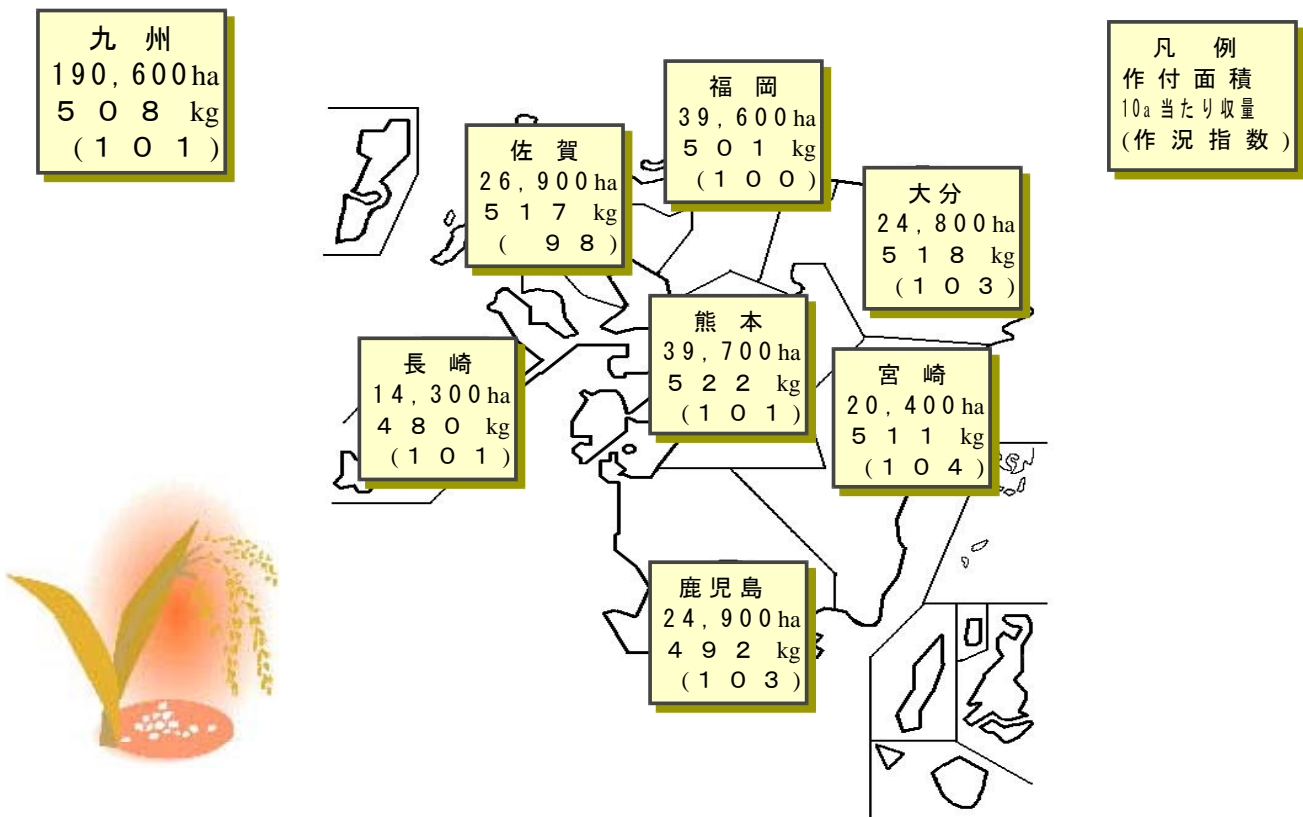
### 平成20年産水稻の作付面積及び10月15日現在における予想収穫量（九州）

— 作付面積（子実用）は前年産に比べて3%減少 —  
10a 当たり予想収量は508kg（作況指数101）の見込み

#### 【調査結果の概要】

- 九州における平成20年産水稻の作付面積（子実用）は19万600haで、前年産に比べ5,200ha（前年産対比3%）減少しました。  
うち、主食用作付見込面積は、18万9,500haが見込まれます。
- 水稻の作柄は、梅雨明け以降高温・多照に推移したものの、主として9月中旬以降日照不足等で推移したことから、10a 当たり予想収量は508kg（作況指数101）が見込まれます。
- この結果、予想収穫量（子実用）は96万8,500tが見込まれます。  
また、主食用作付見込面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は96万2,400tが見込まれます。

図 平成20年産各県別水稻作付面積及び10a 当たり予想収量（10月15日現在）



- 作付面積（子実用）とは、青刈り用の面積を除いた作付面積です。
- 主食用作付見込面積とは、作付面積（青刈り面積を含む）から、生産調整カウントとなる米穀等（加工用米、新規需要米等）の面積を除いた面積（見込み）です。
- 作況指数とは、10a当たり平年収量に対する10a当たり（予想）収量の比率です。
- 調査は、収穫を終えた地域では刈取り実測により行いましたが、一部収穫を終えていない地域ではもみ数、登熟状況等を実測し、その後の登熟については気象が平年並みに推移するものとして推定する方法により行いました。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがあります。

表1 平成20年産水稲の作付面積及び予想収穫量（10月15日現在：九州）

区分	作付面積 (子実用)			10a当たり 予想収量	予想収穫量 (子実用)	前年産との比較		(参 考)				
	①	前年産との比較				③=①×②	前年産との比較		主食用 作付見込面積 ④	予想収穫量 (主食用) ⑤=④×②	10a当たり 平年収量 ⑥	作 況 指 数 ⑦=②/⑥
		対差	対比				対差	対比				
九州計	190 600	△5 200	97	508	968 500	32 300	103	189 500	962 400	502	101	
福岡	39 600	△ 400	99	501	198 400	4 400	102	39 200	196 400	499	100	
佐賀	26 900	△1 200	96	517	139 100	△2 500	98	26 700	138 000	528	98	
長崎	14 300	△ 300	98	480	68 600	△ 300	100	14 200	68 200	474	101	
熊本	39 700	△1 300	97	522	207 200	△3 100	99	39 300	205 100	515	101	
大分	24 800	△1 100	96	518	128 500	800	101	24 800	128 500	503	103	
宮崎	20 400	△ 600	97	511	104 200	26 100	133	20 300	103 700	493	104	
早期栽培	8 790	△ 360	96	505	44 400	25 600	236	...	...	475	106	
普通栽培	11 600	△ 300	97	516	59 900	300	101	...	...	507	102	
鹿児島	24 900	△ 400	98	492	122 500	6 900	106	24 900	122 500	479	103	
早期栽培	5 950	△ 340	95	467	27 800	9 100	149	...	...	439	106	
普通栽培	19 000	0	100	500	95 000	△1 700	98	...	...	492	102	

- 注： 1 主食用作付見込面積はラウンドしているため、県ごとの積み上げ値と九州計は一致しません。  
 2 予想収穫量(子実用)及び予想収量(主食用)の九州計は県の積み上げ値であるため、表頭の計算は一致しません。

本統計調査結果で使用している統計表は、以下のアドレスからデータとしてご利用いただけます。  
 【[http://www.kyushu.maff.go.jp/toukei/ht\\_all.html](http://www.kyushu.maff.go.jp/toukei/ht_all.html)】

この統計調査における調査目的、調査対象などの調査仕様は、【調査の仕様】9Pに掲載しています。

## 【解 説】

### 1 作付面積

水稲の作付面積（子実用）は19万600haで、前年産に比べ5,200ha（前年産対比3%）減少しました。

これは、他作物等への転換等があったことによります。  
 うち、主食用作付見込面積は、18万9,500haが見込まれます。

### 2 作柄概況

#### (1) 早期栽培水稲（主産県：宮崎・鹿児島）

もみ数は、穂数がやや少なかったことから、やや少ないないし平年並みとなりました。  
 登熟は、出穂期以降天候に恵まれたことから、良好となりました。  
 このことから、10a当たり収量は宮崎505kg（作況指数106）、鹿児島が同467kg（同106）となりました。

## (2) 普通栽培水稻

もみ数は、穂数がやや多かった長崎、熊本、大分、宮崎及び鹿児島ではやや多くなり、穂数が平年並みであった福岡及び佐賀では平年並みないしやや少なくなりました。

登熟は、出穂以降比較的高温で推移したものの、主として9月中旬以降日照不足で推移したこと、最低気温が平年を上回って推移し気温日較差が小さかったこと、また、南九州を中心とした地域の一部において、秋雨前線や台風による倒伏や穂発芽等が発生したことから、登熟は九州全体として平年並みが見込まれます。

このことから、10a当たり予想収量は福岡501kg（同100）、佐賀517kg（同98）、長崎480kg（同101）、熊本522kg（同101）、大分518kg（同103）、宮崎516kg（同102）、鹿児島は500kg（同102）が見込まれます。

この結果、九州の10a当たり予想収量は508kg（同101）が見込まれます。

## 3 予想収穫量

予想収穫量（子実用）は96万8,500tが見込まれます。

また、主食用作付見込面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は96万2,400tが見込まれます。

## 4 被害状況

早期栽培では、気象被害、病虫害の発生がともに少なかったことから、被害は少なくなりました。

普通栽培では、長崎、熊本、大分、宮崎及び鹿児島の一部の地域において、台風第13号、第15号の接近又は秋雨前線に伴う降雨等により、倒伏、もみずれ、葉先の裂傷、穂発芽等の気象被害が発生しました。

病虫害については、いもち病、紋枯病、内穎褐変病又はもみ枯細菌病の発生が一部の地域で見られるものの、被害は軽微となっています。

表2 平成20年産水稻の県別作柄概況（10月15日現在）

区 分	10a当たり 収 量 ①	(参 考)		刈 取 期					穂 数 の 多 少  ( 平 年 比 較 )	1 穂 も 当 み た 数 の 多 少	全 も み 数 の 多 少	登 熟 の 良 否	刈 取 済 面 積 割 合  %	対 平 年 差  ポ イ ン ト
		10a当たり平 年収量 ②	作況指数 ③=①/②	始 期	最 盛 期	終 期	最盛期の比較							
							平 年 比 較	前 年 比 較						
<b>福 岡</b>	<b>501</b>	<b>499</b>	<b>100</b>	<b>9. 2</b>	<b>10. 4</b>	…	<b>並み</b>	<b>1日遅</b>	<b>平年並み</b>	<b>平年並み</b>	<b>平年並み</b>	<b>平年並み</b>	<b>88</b>	<b>4</b>
福 岡	487	481	101	8.25	10. 8	…	2日早	2日遅	やや少ない	やや多い	やや多い	平年並み	93	6
北九州・豊前	491	481	102	8.23	9.19	…	2日早	2日遅	平年並み	やや多い	やや多い	平年並み	92	0
<b>筑 豊</b>	<b>488</b>	<b>485</b>	<b>101</b>	<b>8.18</b>	<b>9.23</b>	…	<b>1日遅</b>	<b>5日遅</b>	<b>平年並み</b>	<b>平年並み</b>	<b>平年並み</b>	<b>やや良</b>	<b>92</b>	<b>3</b>
北筑後	518	519	100	9.21	10.12	…	並み	並み	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	89	8
南筑後	512	517	99	9.23	10.13	…	2日遅	並み	やや多い	やや少ない	平年並み	平年並み	74	0
<b>佐 賀</b>	<b>517</b>	<b>528</b>	<b>98</b>	<b>9. 1</b>	<b>10. 9</b>	…	<b>1日遅</b>	<b>4日遅</b>	<b>平年並み</b>	<b>やや少ない</b>	<b>やや少ない</b>	<b>平年並み</b>	<b>70</b>	<b>△ 2</b>
佐 賀	524	537	98	9.17	10.10	…	1日遅	4日遅	平年並み	やや少ない	やや少ない	平年並み	66	△ 1
松 浦	486	492	99	8.23	9.25	…	1日早	1日遅	平年並み	平年並み	やや少ない	平年並み	86	△ 8
<b>長 崎</b>	<b>480</b>	<b>474</b>	<b>101</b>	<b>8.25</b>	<b>10.11</b>	…	<b>2日遅</b>	<b>4日遅</b>	<b>やや多い</b>	<b>平年並み</b>	<b>やや多い</b>	<b>平年並み</b>	<b>65</b>	<b>△ 12</b>
西 彼	478	476	100	9.28	10. 4	10.12	5日遅	6日遅	やや多い	やや多い	多 い	不 良	99	0
東南部	511	509	100	10. 2	10.14	…	1日遅	4日遅	やや多い	少ない	やや少ない	平年並み	55	△ 10
県 北	459	457	100	8.28	10.13	…	3日遅	3日遅	やや多い	やや多い	やや多い	やや不良	57	△ 22
五 島	437	407	107	8.15	9.28	10. 9	2日遅	5日遅	平年並み	やや多い	やや多い	良	99	△ 1
苅岐・対馬	461	442	104	8.22	9.27	10.13	1日遅	1日遅	多 い	平年並み	やや多い	平年並み	97	3
<b>熊 本</b>	<b>522</b>	<b>515</b>	<b>101</b>	<b>8.15</b>	<b>10.10</b>	…	<b>4日遅</b>	<b>4日遅</b>	<b>やや多い</b>	<b>平年並み</b>	<b>やや多い</b>	<b>平年並み</b>	<b>63</b>	<b>△ 8</b>
県 北	532	528	101	10. 4	…	…	…	…	やや多い	やや少ない	平年並み	やや良	49	△ 16
阿 蘇	537	510	105	9.10	10. 5	…	10日遅	9日遅	やや少ない	多 い	やや多い	平年並み	90	△ 3
県 南	509	510	100	9.10	10.13	…	2日遅	5日遅	やや多い	やや多い	やや多い	やや不良	65	2
天 草	456	437	104	7.29	8. 8	10.10	並み	1日早	平年並み	やや多い	やや多い	平年並み	97	1
<b>大 分</b>	<b>518</b>	<b>503</b>	<b>103</b>	<b>9.15</b>	…	…	…	…	<b>やや多い</b>	<b>平年並み</b>	<b>やや多い</b>	<b>平年並み</b>	<b>48</b>	<b>△ 10</b>
北 部	517	517	100	9.15	…	…	…	…	やや多い	平年並み	平年並み	平年並み	36	△ 8
湾 岸	522	500	104	9.11	…	…	…	…	多 い	やや少ない	やや多い	平年並み	49	△ 6
南 部	513	498	103	9.20	…	…	…	…	やや多い	やや多い	多 い	やや不良	49	△ 16
日 田	526	490	107	9.10	10. 7	…	4日遅	9日遅	多 い	やや少ない	多 い	良	75	△ 8
<b>宮 崎</b>	<b>511</b>	<b>493</b>	<b>104</b>	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
早期栽培計	<b>505</b>	<b>475</b>	<b>106</b>	<b>7.26</b>	<b>7.31</b>	<b>8. 7</b>	<b>1日遅</b>	<b>1日早</b>	<b>やや少ない</b>	<b>やや多い</b>	<b>平年並み</b>	<b>良</b>	<b>100</b>	<b>0</b>
広域沿海	505	475	106	7.26	7.31	8. 7	1日遅	1日早	やや少ない	やや多い	平年並み	良	100	0
普通栽培計	<b>516</b>	<b>507</b>	<b>102</b>	<b>10. 3</b>	…	…	…	…	<b>やや多い</b>	<b>平年並み</b>	<b>やや多い</b>	<b>やや不良</b>	<b>49</b>	<b>△ 15</b>
広域沿海	471	469	100	9.27	10.13	…	4日遅	5日遅	やや多い	やや少ない	平年並み	平年並み	61	△ 27
広域霧島	538	527	102	10. 5	…	…	…	…	やや多い	平年並み	やや多い	平年並み	40	△ 10
西北山間	500	486	103	10. 1	10.12	…	6日遅	8日遅	多 い	平年並み	多 い	やや不良	66	△ 17
<b>鹿 児 島</b>	<b>492</b>	<b>479</b>	<b>103</b>	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
早期栽培計	<b>467</b>	<b>439</b>	<b>106</b>	<b>7.26</b>	<b>8. 2</b>	<b>8.12</b>	<b>2日遅</b>	<b>2日早</b>	<b>やや少ない</b>	<b>平年並み</b>	<b>やや少ない</b>	<b>良</b>	<b>100</b>	<b>0</b>
薩摩半島	472	440	107	7.27	8. 2	8. 9	2日遅	3日早	やや少ない	平年並み	やや少ない	良	100	0
大隅半島	474	449	106	7.27	8. 3	8.15	1日遅	3日早	やや少ない	平年並み	少ない	良	100	0
熊毛・大島	441	412	107	7.17	7.25	8. 2	5日遅	2日遅	やや多い	やや少ない	平年並み	良	100	0
普通栽培計	<b>500</b>	<b>492</b>	<b>102</b>	<b>10. 4</b>	…	…	…	…	<b>やや多い</b>	<b>平年並み</b>	<b>やや多い</b>	<b>平年並み</b>	<b>55</b>	<b>△ 8</b>
薩摩半島	485	473	103	10. 4	10.13	…	3日遅	5日遅	平年並み	平年並み	平年並み	やや良	73	△ 12
出水薩摩	503	491	102	10. 4	…	…	…	…	やや多い	平年並み	多 い	平年並み	41	△ 18
伊佐始良	511	512	100	10. 7	…	…	…	…	多 い	やや少ない	やや多い	やや不良	45	4
大隅半島	487	471	103	9.27	10. 7	…	並み	1日遅	やや多い	やや少ない	平年並み	やや良	84	△ 9

注：1 刈取期の始期とは刈取面積割合が5%、最盛期は同50%、終期は同95%にそれぞれ達した期日です。

2 「…」は10月15日現在において、その期日に達していないことを示しています。

【参考 1】 平成20年産水稻の作柄表示地帯別の作況指数（10月15日現在）

区 分	作況指数	区 分	作況指数
<b>福 岡</b>	<b>100</b>	<b>宮 崎</b>	<b>104</b>
福 岡	101	広域沿海	105
北九州・豊前	102	広域霧島	102
筑 豊	101	西北山間	103
北筑後	100	<b>早期栽培計</b>	<b>106</b>
南筑後	99	広域沿海	106
<b>佐 賀</b>	<b>98</b>	<b>普通栽培計</b>	<b>102</b>
佐 賀	98	広域沿海	100
松 浦	99	広域霧島	102
<b>長 崎</b>	<b>101</b>	西北山間	103
西 彼	100	<b>鹿 児 島</b>	<b>103</b>
東南部	100	薩摩半島	104
県 北	100	出水薩摩	102
五 島	107	伊佐始良	100
杵岐・対馬	104	大隅半島	104
<b>熊 本</b>	<b>101</b>	熊毛・大島	107
県 北	101	<b>早期栽培計</b>	<b>106</b>
阿 蘇	105	薩摩半島	107
県 南	100	大隅半島	106
天 草	104	熊毛・大島	107
<b>大 分</b>	<b>103</b>	<b>普通栽培計</b>	<b>102</b>
北 部	100	薩摩半島	103
湾 岸	104	出水薩摩	102
南 部	103	伊佐始良	100
日 田	107	大隅半島	103

【参考 2】 平成20年産水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況及び10a当たり収量内訳(概数値)

本調査では、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的としていることから、収量基準は、農産物規格規程三等の品位(整粒歩合45%)以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別された玄米の重量としています(【参考3】参照)。

農家等が販売するために使用している選別ふるい目幅は、地域、品種等により異なるため、刈取り済みの地域について、ふるい目幅別の重量割合とふるい目幅別10a当たり収量の概数値を示すと次のとおりです。

単位 { 重量割合：％  
平均対差：ポイント  
収量内訳：kg

区分	合計	ふるい目幅						
		2.00mm	1.90mm	1.85mm	1.80mm	1.75mm	1.70mm	
農業地域								
九州								
重量割合	本年値	100.0	63.4	24.1	5.3	3.4	2.3	1.5
	平均対差		6.3	△ 4.5	△ 1.2	△ 0.4	△ 0.1	△ 0.1
	(収量内訳)	(508)	(322)	(445)	(471)	(489)	(500)	(508)
福岡								
重量割合	本年値	100.0	65.3	22.7	5.2	3.2	1.9	1.7
	平均対差		8.0	△ 5.2	△ 1.6	△ 0.8	△ 0.3	△ 0.1
	(収量内訳)	(501)	(327)	(441)	(467)	(483)	(492)	(501)
佐賀								
重量割合	本年値	100.0	57.5	27.1	5.7	4.8	3.0	1.9
	平均対差		1.3	△ 0.7	△ 1.0	△ 0.1	0.4	0.1
	(収量内訳)	(517)	(297)	(437)	(467)	(492)	(507)	(517)
長崎								
重量割合	本年値	100.0	60.1	26.3	6.0	3.8	2.3	1.5
	平均対差		7.1	△ 3.1	△ 0.8	△ 1.4	△ 1.0	△ 0.8
	(収量内訳)	(480)	(288)	(415)	(444)	(462)	(473)	(480)
熊本								
重量割合	本年値	100.0	64.7	23.3	4.9	3.0	2.4	1.7
	平均対差		7.6	△ 5.4	△ 1.2	△ 0.6	△ 0.3	△ 0.1
	(収量内訳)	(522)	(338)	(459)	(485)	(501)	(513)	(522)
大分								
重量割合	本年値	100.0	57.6	27.2	6.7	3.8	3.3	1.4
	平均対差		4.0	△ 2.3	△ 1.2	△ 0.5	0.0	0.0
	(収量内訳)	(518)	(298)	(439)	(474)	(494)	(511)	(518)
宮崎								
重量割合	本年値	100.0	68.4	22.0	4.5	2.5	1.5	1.1
	平均対差		11.1	△ 8.3	△ 1.7	△ 0.5	△ 0.3	△ 0.3
	(収量内訳)	(511)	(350)	(462)	(485)	(498)	(505)	(511)
鹿児島								
重量割合	本年値	100.0	68.4	21.8	4.3	2.6	1.7	1.2
	平均対差		10.7	△ 6.9	△ 1.7	△ 1.3	△ 0.5	△ 0.3
	(収量内訳)	(492)	(337)	(444)	(465)	(478)	(486)	(492)

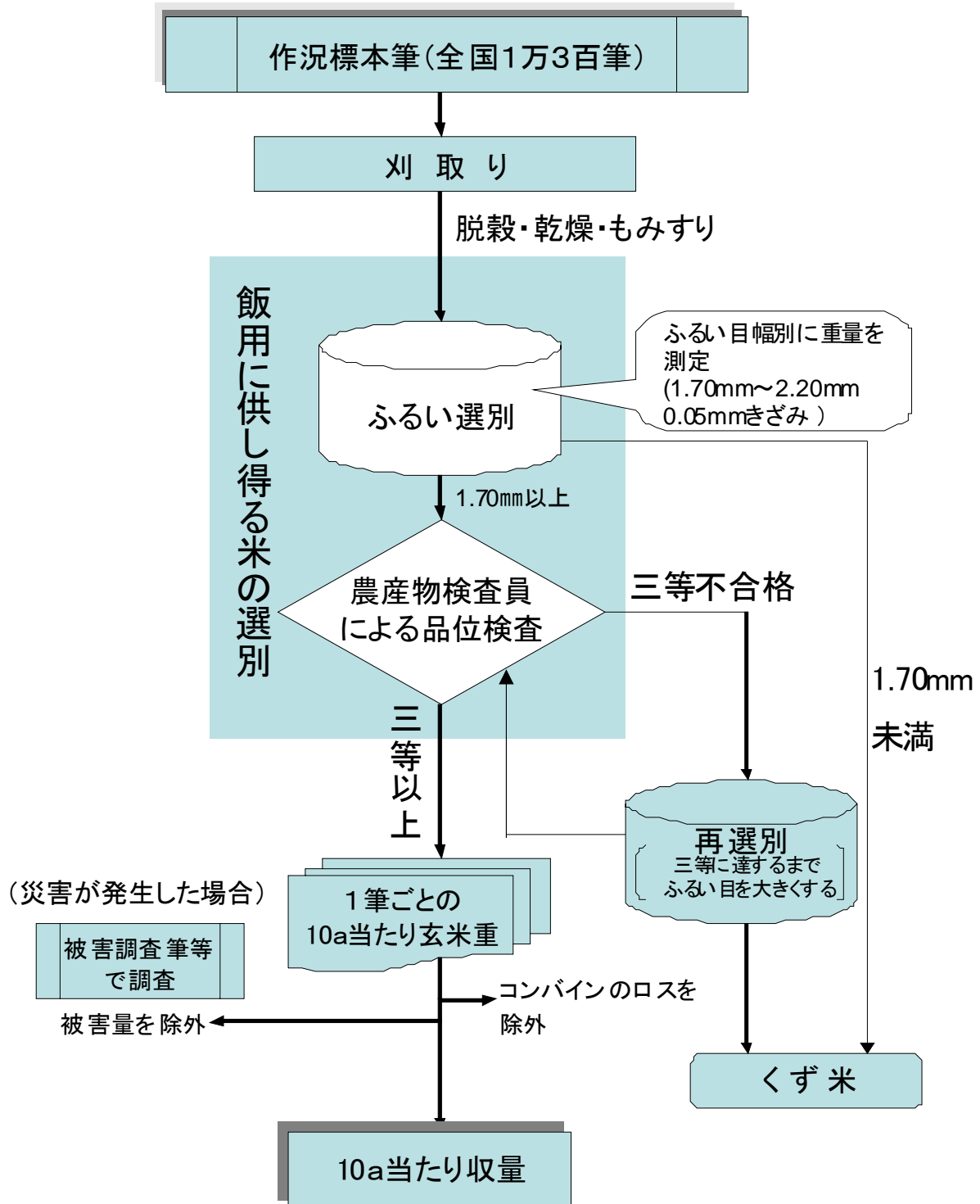
注：1 平均対差に用いた平均値は、直近5カ年の重量割合の平均値です。

2 ふるい目幅別の収量内訳( )は、表頭のふるい目幅を使用した際に得られる10a当たり収量のことです。

3 台風等により未熟粒・被害粒等の混入が多く農産物検査規格三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいます。

## 収穫量調査の流れ

収穫量調査は、飯用に供し得る米の全量を把握することを目的として、作況標本筆（【参考4】参照）ごとに一定面積の稲を刈取り、農産物規格規程三等以上の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別を行い、その重さを計測しています（下図参照）。



【参考 4】

## 作況標本筆<sup>ふで</sup>とは

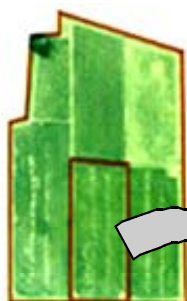
収穫量の実測調査の対象とした作況標本筆(1枚のほ場を<sup>ふで</sup>筆と呼びます。)は、各都道府県の水稲の状況が把握できるように、標本理論に基づいて以下のように各地で選定し(全国で約1万300筆)調査しています。

都道府県内の全耕地  
(母集団)



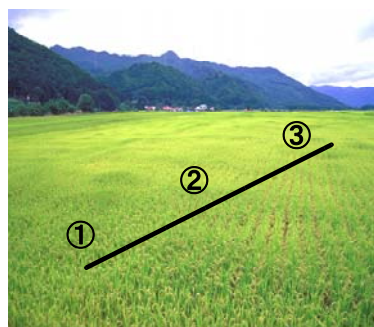
- ① 都道府県ごとの耕地を、2haの区画に区切った単位区の集まり(調査母集団)として整理し、その中の水田を含むものから、無作為抽出法(人間の恣意を排したくじ引きの様な選び方)により「標本単位区」を選んでいきます。

標本単位区  
(約2ha)



- ② 標本単位区の中から無作為に1枚の水田ほ場を選び、「作況標本筆」としています。

作況標本筆  
(全国で約1万300筆)



- ③ 各作況標本筆の対角線上の3か所を実測調査箇所として、サンプル採取(坪刈り)を行っています。

## 【調査の仕様】

### 1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の作付面積調査及び水稻調査の中の予想収穫量調査として実施し、水稻の作付面積、作柄状況、予想収穫量を明らかにすることにより、生産対策、需給調整、経営安定対策、技術指導等の農林水産行政推進のための資料とすることを目的としています。

### 2 調査期間

- (1) 作付面積調査： 7月15日現在
- (2) 予想収穫量調査： 10月15日現在

### 3 調査方法

#### (1) 作付面積調査

調査は、標本単位区に対する統計・情報センター職員及び統計調査員による実測調査並びに同センター職員による巡回・見積りにより行いました。

#### (2) 予想収穫量調査

調査は、作況標本筆、作況基準筆及び被害調査筆に対する統計・情報センター職員による実測調査及び作況基準筆結果に基づく巡回・見積りにより行いました。

### 4 調査客体数

#### (1) 作付面積調査

標本単位区：5,895単位区          巡回・見積り：250市町村

#### (2) 予想収穫量調査

作況標本筆：1,495筆          作況基準筆：179筆          巡回・見積り：250市町村

### 5 用語の解説

○ 青刈りとは、子実の生産以前に刈り取られるもので、飼肥料用などとして用いられるものです。

なお、青刈りには、稲発酵粗飼料（ホールクロップサイレージ）、わら専用稲を含みます。

○ 「穂数の多少」は、1㎡当たりに出穂したすべての穂の数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。

○ 「1穂当たりもみ数の多少」は、1穂についているすべてのもみの平均数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。

○ 「全もみ数の多少」とは、1㎡当たりのすべてのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。

○ 「登熟の良否」とは、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）が平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表しています。

○ 上記の平年比較とは、過年次の作況標本筆結果から作成した1㎡当たり穂数等の各収量構成要素の平年値との比較です。

多少(良否)	少ない(不良)	やや少ない(やや不良)	平年並み	やや多い(やや良)	多い(良)
対平年比	94%以下	95～ 98%	99～101%	102～105%	106%以上

○ 作況指数とは、10a当たり平年収量に対する10a当たり予想収量の比率です。

○ 10a当たり平年収量とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合や作付変動等を考慮し、実収量のすう勢を基に作成したその年に予想される10a当たり収量をいいます。

### 6 利用上の注意

○ 予想収穫量調査（10月15日現在）は、収穫を終えた地域では刈取実測により行いましたが、一部収穫を終えていない地域では、もみ数、登熟状況等を実測し、その後の登熟については気象が平年並みに推移するものとして推定する方法により行いました。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがあります。

**【関連リンク】**

九州農政局ホームページ>統計>公表一覧

[http://www.kyushu.maff.go.jp/toukei/ht\\_all.html](http://www.kyushu.maff.go.jp/toukei/ht_all.html)

九州農政局ホームページアドレス

<http://www.kyushu.maff.go.jp/>

**問い合わせ先**

**◎本統計調査結果について**

連絡先：九州農政局 統計部

生産流通消費統計課 生産統計第1・2係

電話：(代) 096-353-3561 内線 4753・4754

直通電話： 096-353-7574

**◎農林水産統計全般について**

連絡先：九州農政局 統計部

統計企画統計課 企画係

電話：(代) 096-353-3561 内線 4723

直通電話： 096-353-7556